

## 地域の中の福音寮について考える

社会福祉法人福音寮

古川 理恵、塩野 有沙、岡田 真未子

(地域 児童養護施設)

### 1. 目的

福音寮は戦争孤児の支援から始まった児童養護施設である。今年75周年を迎えた。本発表では、これまでの地域との交流を振り返ることで、これから地域の中の在り方について地域の方々より意見をいただく機会としたい。



### 2. 実践内容

福音寮は「ほっとしたつながりで育ち合いましょう」の家庭的な養育を目指して、生活単位を小規模地域分散してグループホーム化し、それぞれのホームで完全調理を行なってきた。また、地域の学校に通い、それぞれのホームが地域の避難訓練、地域の行事、清掃活動等に参加し、地域の方と顔を合わせる機会となっている。地域の方々にもボランティアとして学習や手芸、工作、ピアノを教えていただいたり、絵本の読み聞かせや犬の散歩に同行させていただいている。また、フレンドホームとして地域のご家庭での家庭的体験や地域の日本大学文理学部で学生が勉強を教えてくださる日大さくらんぼ塾を利用させていただいている。

福音寮では、児童養護施設の地域分散化と並行して、子育て広場、後援会、保育園、学童クラブ、放課後居場所事業を展開し、地域との交流を重ねてきた。今回コロナ禍において、一時広場などを閉所する状況もあり、新たな交流の場としてSNSを開始している。



### 3. 結果

この10年間に児童養護施設のグループホームを地域分散化する中で、子どもの居場所はホームだけではなく、友だち、学校、ご近所の方々との地域の生活すべてが子どもにとってかけがえのない場所であり、地域が子どもたちの居場所であること、そして、子どもが退所した後も子どもの基盤となっているのは地域であることを強く意識している。子どもたちにとって地域は居場所であり、将来の家族や地域での生活のモデルになっている。この気づきから、子どもたちは生まれ育った家庭の中で育ってほしいという思いを強くし、地域の中での子育てから地域とともに子育てをすることを意識することとなった。

#### 4. 考察と今後の課題

これからの福音寮の地域の中の在り方については、家族の生活スタイルや子どもの成長・発達段階に合わせて利用できる環境や専門性を充実させていくこと、さまざまな事業での活動から、子どもの成長に沿った地域のニーズを集めていくこと、身近な交流の「場」、新しい交流の場として、世代から世代へ、人と人をつなぎ、時には必要なことが必要な家族に届くように福音寮から出していくような、役割を考えていきたい。また、家族と、行政や医療機関などの専門機関、地域の子育てにかかわるたくさんの方々がつながりあいながら、地域全体が本来地域に備わっていた子育ての力を発揮できるようなネットワークを作っていくことができればと考える。児童養護施設での権利擁護の取り組みや専門的なケア、24時間365日の支援から、発達段階や家族の形に応じた関り、地域との交流など、これまでの福音寮の取り組みが地域に届けられるような、地域の子育ての足場になっていきたい。

### ＜助言者コメント＞

田邊 仁重（世田谷区生活困窮者自立相談支援センター  
ぷらっとフォーム世田谷自立生活支援課長）

75年の福音寮の活動において、一人一人の子どもの発達や成長のために家庭的な養育を目指す中で、子どもの育ちには地域の関わりが必要であるという考えに基づき地域と様々な交流に取り組み、さらにこれからは地域の子育ての足場として、役割を進化させていく過程がよくわかるご報告でした。

子どもが育つ過程では、自分が受け入れられ、安心して過ごすことができる居場所や大人との関係があることが、心身の発達や成長して社会の多様な関係性の中で過ごしていくためにとても大切なことだと思います。一方、子どもが求める居場所や相手は、年齢やその時の興味関心、仲間、学習環境等によって変化するため、受け止めるには多様性が必要となります。核家族化が進み、地域関係が希薄な中では、家庭にその役目を期待するのは、親・子ども双方にとって酷な状況です。

福音寮では、子育て広場や保育園事業などを行うことで地域の親子と同級生としてのつながりや、地域ボランティアと読みきかせや学習支援、犬の散歩などでつながりができます。このように、日常の中で多様な居場所や関係性ができるることは、寮の子どもにとっても、地域の子どもにとっても多様な関係性が存在することになり、とても良い環境にあると思います。

地域には、不安や悩みを抱える世帯も多いと思います。福音寮のように多世代の子どもの養育について、経験豊富な専門家が地域に存在することは地域の強みだと思います。

こうした強みをさらに地域に発信・共有し、住民と福音寮が支え支えられる関係で、地域の子育ての足場となられることを期待しています。発表いただきありがとうございました。